

<p>導することが大切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>送り仮名の指導については、原則をしっかり身につけさせることが大切である。また例外的なものは、それぞれの事例に応じて、理由や用例を理解させていくことが必要であろう。作文やノートの指導などを通して、正しい用法の理解を深めていきたい。正答率は51%である。</li> </ul>	
観点・小問ごとの分析	対策の視点
<p>③ 語句を読む</p> <p>一、二、対語・類語がわかる</p> <p>一の対語は、77%と高い正答率であるが、二の類語は、34%と低い正答率である。</p> <p>「習慣」とよく似た言葉として、「練習」「習得」と答えたものが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対語については、語句指導の際、語句の意味をわからせる過程で十分指導がなされているようであるが、類語については、対語ほど徹底した指導がなされていないようである。</li> <li>対語・類語の指導では、文章の中で語句の意味を生かしてとらえさせていく指導が大切である。</li> </ul>
<p>三、慣用語句がわかる</p> <p>1.「心おきなく」に対して、「ア、休むひまもなく」、2.「目にしみる」に対して、「オ、心配しないで」と答えた誤答が多かった。</p> <p>なお、正答率は、1.「心おきなく」(33%)、2.「目にしみる」(57%)である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>慣用語句は、場面や状態と結びつけて、理解させていくことが大切であろう。文章表現の面白さ、確かさなどに触れながら指導していきたい。また読書量を多くして、自然に用法が身につくようにすることも大切であろう。</li> </ul>
<p>四、文脈にそって語句の意味がわかる</p> <p>「ひたむきな」を「大きい」「かなしい」と答えたものが多い。文章の中で正しい語句の意味をとらえることができずに、文章から受けるふんい気から答えたものであろう。</p> <p>正答率43%。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>辞書の利用の習慣化を図り、辞書にでているどの意味か、文章中の語句の意味として最適なのかを判断する力を育てていかなければならないと考える。</li> </ul>
<p>五、語句の組み立てがわかる</p> <p>1.似た意味の漢字でできている熟語では、「勝負」「往復」とした誤答が多い。正答率は45%である。</p> <p>2.一方が他方を修飾しているものでは「正</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>熟語の構成には、一定のきまりがあるので、それらの指導の徹底が必要である。</li> <li>言葉の成り立ちについては、辞書などを利用し、興味と関心を持って調べていく態度を育てていく指導が大切であろう。</li> </ul>